

様式第10号の3の1（第19条関係）

事業の種類【協働で叶える市民活動促進事業】

事業の名称：終活の情報提供・実施支援事業

団体名	うんなん終活支援センター	事業費	202,413 円
代表者	松尾澄美	補助金交付額	200,000 円
構成員	10 人	事業実施期間	令和5年4月7日から 令和6年3月20日
協働のパートナー部署	健康づくり推進課、 うんなん暮らし推進課	その他連携先	包括支援センター しまね信用金庫

現状と課題

終活がなされていないことで、自分の意思とは違った生活や終末期を迎えていたり、死後の手続きがうまくいかない場面が多くみられる。終活の大切さと、その選択肢の情報を知らないことが原因と考えられる。終活がなされないその結果、個人の問題だけでなく、望まない医療に対する医療費や、管理不全不動産につながり地域での問題となっている。

事業のねらい

地域住民の方に終活に関する情報を提供・終活の実施支援をし、これからの人生を自ら決し、よりよく生きることへつなげる。同時に上記のような地域課題への解消へつなげる。

実施状況

◇実施状況

4月から12月毎月の終活イベント

- ・終活ファイル（エンディング）の作成
- ・電話による終活相談の常設
- ・終活サロンの開催
- ・自主組織でのセミナー開催（2か所）

◇協働の内容（役割分担と成果）

市：周知、告知、場所

団体：企画、運営、実施

協働事業で周知を行ったことにより、延べ230名の参加につながった。

◇今後の改善点等

終活の情報・実施支援に対して、継続した活動が必要であるがそれに対応した、経費、マンパワーが必要となる。団体の周知が進むにつれ相談対応が困難になる恐れがある。雲南市独自のエンディングノートの作成が実現化し、その普及活用のためにも住民と関係性を構築しておられる自主組織さんと一緒に取組むことを希望している。



事業の名称：きすき駅前盆踊り夜市

団体名	駅通り商工振興会	事業費	222,813円
代表者	会長 千原 正	補助金交付額	200,000円
構成員	15人	事業実施期間	令和5年7月10日～ 令和5年8月30日
協働のパートナー部署	産業観光部 商工振興課 政策企画部 地域振興課 木次総合センター自治振興課	その他連携先	三新塔あきば協議会 木次エリア活性化推進協議会 他

現状と課題

昭和の時代、雲南市の玄関口である木次駅前地区は、活気に溢れ、盛んな賑わいをみせていました。しかし近年は、往時の影はなく衰退の一途にあります。そのような現状からかつて雲南の中心として賑わった木次を取り戻すため、他団体と連携し、駅前地区を元気にするべく、イベント等の開催を通じて、賑わいを創出する活動に取り組んでいます。

事業のねらい

例年8月14日に開催される三新塔地区の盆踊り大会に併せ、かつて昭和の時代に賑わった夜市を復活開催し、露店やライブステージ等のイベントで駅前周辺の賑わいを創出することで商店会員を応援。参加される地域住民の方やお盆で帰省中の木次出身の方にも盆踊りを体験して頂き、共に楽しんで頂ける催しにするため開催した。また、今後地域の担い手となる若い世代や中学生にボランティアとして参加してもらい、地域の伝統行事への理解を深めてもらう機会にする。

実施状況

◇実施状況

地元住民の方が中心のイベントであり、圏外来街者は、少なかった。盆踊りを目的に来場される方が多く、20時から、殆どが駅前広場へ移動された。

チェリヴァホールのライブステージは、約100名の観客があり、1Fロビーの観客席は、ほぼ満席の状態であった。この取組で改めて地域の伝統行事への理解を深めてもらう機会となった。

◇協働の内容（役割分担と成果）

提案団体：イベント企画、運営、チラシ等による周知

雲南市：イベントの周知（HP、広報誌、ケーブルTV等）

連携団体：場所の提供、ライブ開催、イベント周知への協力

◇今後の改善点等

- ・ 出店品目で販売額の格差が見受けられた。
- ・ アクションは、好調であり今後伸ばすことも検討要
- ・ 旧植栽跡地のサークルのベンチは、食事、歓談、キッズ遊具として有効に利用されていた。
- ・ 浴衣姿の参加が目についた。夏の風物詩として、インスタ映えする被写体等の環境づくりが必要。



様式第10号の3の1（第19条関係）

事業の種類【協働で叶える市民活動促進事業】

事業の名称：Kurai Family Band とおんがくであそぼう！

団体名	UNNAN アートスタート 実行委員会	事業費	286,240 円
代表者	安達友二郎	補助金交付額	200,000 円
構成員	12 人	事業実施期間	令和5年 9月16日—3月8日
協働のパートナー部署	教育委員会社会教育課、 政策企画部 うんなん暮らし推進課	その他連携先	(株)キラキラ雲南 ママじかん and お父さん と一緒に

現状と課題

ネット社会の現代では、子ども達が本物と触れ合う機会が失われつつある。それに加え、お家時間も増え人とのコミュニケーションを取る事に対し苦手意識を持っている子ども達が増えている。

事業のねらい

デジタル世界に慣れている現代の子ども達に最前線で活躍するアーティストの音に直接触れ合う機会を作る事で、画面を通してではなく直接本物と触れ合う事の素晴らしさを体感してもらう。音楽に触れ、自分の想いや感じた事を伝える事の大切さや、表現する事の楽しさを知る事でコミュニケーション能力の向上も目的としている。本物の音楽と共に木次線の自然豊かな景色の絵を思い出に残し、継続して木次線を利用してもらうきっかけの一つとする。

実施状況

◆実施状況

1日を通して117名に参加いただき、「日常にない体験が出来た」「車窓の景色と音楽が合っていてとても楽しめた」「この経験を機に子どもが音楽に興味を持ってくれた」という参加者からの声の通り、1人1人の満足度が高い、密な内容のイベントになった。

初めての電車、初めての音楽とのふれあい。それぞれのスタートのきっかけ作りと、贅沢な時間と体験を提供出来た。地域資源を活かした体験や音楽を通して、子ども達の学びや喜びが豊かな心を育み高めることができた。



◆協働の内容（役割分担と成果）

・協働での周知

学校へチラシの全校配布や市報掲載等でより多くの方の目に触れる機会が出来た。

◆今後の改善点等

・気軽に来れる参加料金の価格設定

・ターゲットの明確化(年齢層等)をして、媒体や周知先等、そこに合わせた周知方法を展開する。



様式第10号の3の1（第19条関係）

事業の種類【協働で叶える市民活動促進事業】

事業の名称：元気で長生き！運動習慣の定着化を目指す

団体名	幡屋地区健康を守る会	事業費	209,340円
代表者	福山洋二	補助金交付額	200,000円
構成員	1,323人	事業実施期間	R5.12.20～R6.3.15
協働のパートナー部署	健康福祉部健康推進課 身体教育医学研究所うんなん	その他連携先	幡屋地区振興会、幡屋地区 体育協会、スポーツ推進委員

現状と課題

令和2年度から島根県の事業である健康寿命延伸強化プロジェクトのモデル地区になり、令和3年度に健康実態調査を行った。その結果、県と比べ、男女とも運動習慣のない人が多かった。健康づくり活動を推進するうえでも運動に関する普及啓発が必要と考えられた。

事業のねらい

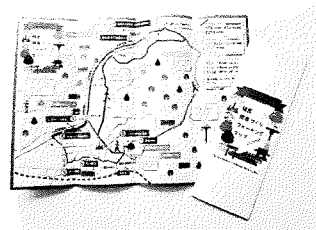
気軽にできるウォーキングにより運動習慣の見直しや改善が図れるよう取り組みを進める。そのためにウォーキングマップを作成する。また、マップには地域の歴史や植物などの地域資源を掲載し、健康づくりだけでなく、地域の魅力が伝わるようにする。

令和6年度にはウォークラリーを開催し、地域で運動に関する関心を高め、健康づくり・介護予防の活動を行う。

実施状況

◇実施状況

地域資源も入れたウォーキングマップを作成し、全戸配布した。また、丸倉山健康登山や自治会ごとに健康座談会を開き、健康づくり活動を学んだ。



◇協働の内容（役割分担と成果）

自治会ごとに健康座談会を開き、市の保健師さんといつまでも元気で過ごすための健康づくりを地域で一緒に考えた。ウォーキングマップを作成して楽しく運動が実践につながるよう座談会で話し合いをした。

◇今後の改善点等

意欲的にウォーキングをして運動習慣の見直しや改善が図れるよう取り組みを進める。ウォークラリーを計画し、健康増進を図る。

